

（午後1時00分 再開）

○議長（石橋英和君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

日程に従い、一般質問を行います。

順番11、10番 坂口君。

〔10番（坂口親宏君）登壇〕

○10番（坂口親宏君） 議長のお許しをいただきましたので、通告に従いまして一般質問を始めさせていただきます。

ご承知のように新任の議員でございますので、不手際等ございましたら、どうぞご容赦また先輩の諸議員におかれましては、どうぞご教示をお願い申し上げます。

今回私がお尋ねしますのは、大きく分けて2項目になるんですが、いずれも共通するテーマは橋本市の対外的な広報戦略の話になるかと考えております。

まず、大きな項目一つ目なんですが、人口減少問題における本市の取り組みの現況を、その対策について具体的にどのような取り組みがなされているのか。現況の取り組みをご紹介いただきまして、中・長期的にその成果を期待できるのかどうか知りたいと考えています。

先月8日に、日本創生会議が発表した試算によりますと、2040年、平成52年には、若年女性の流失により、全国の896市町村が消滅する危機に直面すると。これは机上のデータだと、もはや安易な楽観論を論ずる時期ではないと考えております。消滅可能性の割合が最も高かったのは、秋田県の96.0%、次いで青森県、島根県、岩手県と続いているんですが、和歌山県でも76.7%の割合で市や町が消滅するという試算になっています。

橋本市では、人口移動が収束しない場合、2040年の人口が4万5,550人という試算になっておりまして、ご承知のように、橋本市の人口は平成18年の合併時から起算しまして7万人を既に割り込んでおりまして、毎年300人から500人前後の幅の中で人口の減少が進んでいます。

こうした日本創生会議の試算を、当局はどのように受けとめておられるのかお尋ねしたいと思います。

本市においては、人口減少問題に対しては子育て支援や移住・定住の促進、新婚世帯への住宅補助、婚活支援などに至りまして、これまでさまざまなアプローチから取り組みがなされているんですが、その対策の一つとして、①企業誘致による雇用の創出は、前市長から引き継がれ、本市の主要施策の一つと考えております。では、その企業誘致は、本来どのような目的で始められたものなのか。改めてここでその目的を伺います。そして、現在までの企業誘致の実績をお示しいただきまして、その中で誘致した企業数をはじめ、その従業員の社員数、市外からの赴任社員数、どのような世代の社員が赴任してきているのか。さらに、地元雇用者数、その地元採用の社員は正社員なのか非正規なのか。その割合もお示しいただきたいと考えています。また具体的に法人税や固定資産税は、これまでの企業誘致実績によって、どのくらい税収面での収入の増加を期待できるのでしょうか。今後、あやの台北部用地についての構想を含めこれから本市がとる企業誘致の指針、つまりどれだけの予算を段階的に今後投入していくことになるのか。その見通しについてお示し

いただきたいと思います。

②です。これは、地元雇用面での現状を知りたいと考えているんですが、若年者雇用についてです。人口動態調査によりますと、社会増減の転出者数を見ますと、平成23年度1,842人、平成24年度では1,668人という数字になっています。この相当数が20代の若年者の流失が大部分を占めているのではないかと推測されます。日本創生会議の発表でも、若年女性の都市集中、人口移動が指摘されています。

橋本市での現状を鑑みますと、市内全ての中学の、例えば1学年の生徒数、言いかえますと毎年卒業する生徒の数が500人から600人前後で、高卒で市外の事業所に就職するケースも勘案しまして、これら生徒のほとんどが橋本市から他府県の大学に進学し、そのまま大学や首都圏など県外の企業に就職をして橋本市を離れるケースが非常に多く見られます。つまり都会への人口移動になるんですが本市としては、この現状をどのように考えておられるのでしょうか。

高校や大学の新卒者が、希望すれば橋本市で就職をできる可能性を少しでもつくるためUターン・Iターンの就職支援事業を、本市としてできないか提案したいと思います。当局として、人口減少問題に直面する中で、若年者雇用に対する取り組みをどのようにお考えでしょうか。

それから、先ほどの①の誘致企業に対してなんですが、積極的に中途採用も含め、新卒者などの若年者の採用枠を確保してもらえないか、行政として交渉することは可能なのでしょうか。

さらに、他府県の大学に在籍し、就職活動をしている橋本市出身の新卒者に対して、きめ細かく橋本市にある企業の就職情報を提供するという橋本市に特化した就職情報サイトを

を制作し、橋本市のホームページに掲載あるいはリンクできないかお尋ねします。

それから、③ふるさと教育についてです。

Uターン就職を少しでも促進させるためには、地元橋本市のよさを若い世代に伝え、故郷を愛する心を育むふるさと教育が何より大切だと思うんですが、現状、市内の小・中学校ではどのような取り組みがなされているのか。

さらに、橋本市で生きがいを持って働いていらっしゃる若い世代の魅力的な働き方をさまざまな方法で紹介するなど、実のあるキャリア教育を推進すること、その方法について教育委員会としてはどのようにお考えなのかお示しいただきたいと思います。

それから④です。定住・移住促進のためあるいは地場産業の活性化のためでも構わないんですが、根幹的な本市のPR方法について、市長は、本市を全国、世界に売り出すという抱負を提示されていらっしゃるんですが、本市の何を、世界ではどの国と地域をターゲットに、どのような広報ツールと営業ルート、販路で、本市を売り出しているのか。具体的にお教えいただきたいと思います。その情報発信ツール、手段は極めて重要だと考えているんですが、現在本市の魅力を発信するための広報ツールはどのようなものがあり、現状でどのような運用がなされているのか。さらに、今後どのような中・長期的な広報戦略で本市をPRし、定住・移住を促進していくのか。当局としての方向性もあわせてお示しく下さい。

以上が大きな項目の一つ目の質問になります。

続いて、大項目の二つ目、前畑秀子氏生誕100年記念事業と、岡潔記念館の建設事業についてなんですが、岡潔記念館については、昨日11番議員が既に質問されていますので、

ここでは割愛させていただきます。

前畑秀子氏は、本市の名誉市民でいらっしやいまして、ご承知のように、日本のオリンピック史上に残る偉業を達成した選手になるんですが、前畑秀子氏生誕 100 年記念事業について、その事業の詳細を改めてお教えいただき、本市として生誕 100 年記念事業にふさわしい事業として計画されているのか。また当局としてこの事業をどのように認識されておられるのかもあわせてお伺いしたいと思います。

質問は以上ですので、一つ目の大きな項目からご答弁をお願いしたいと思います。よろしくをお願いします。

○議長（石橋英和君） 10番 坂口君の質問項目 1、人口減少問題の対策に関する質問に対する答弁を求めます。

企画部長。

〔企画部長（北山茂樹君）登壇〕

○企画部長（北山茂樹君） 一点目の企業誘致の目的についてお答えします。

本市は、若者が定住できるまちづくりをめざし、雇用の創出のため、平成 17 年より本格的に企業誘致に取り組んでいます。本年 5 月現在、27 社と進出協定を締結し、20 社が既に操業を開始しています。また、別に 2 社が用地を確保しており、今後協定が締結されますと、総数 29 社となります。

企業誘致による税の増収実績ですが、進出協定締結済み企業 27 社のうち、平成 26 年度都市計画税を含む固定資産税課税額は、25 社で 6,988 万 1,100 円、直近の法人市民税課税額は 1,458 万 2,300 円であり、合計 8,446 万 3,400 円となります。ここから、本市が企業に支払った奨励金 617 万円を差し引いた 7,829 万 3,400 円が増収実績となります。

次に、地元雇用につきましては、進出協定を締結した 27 社の採用計画では、419 人の雇

用が見込まれます。実績としては、現在本市にて操業中の 20 社の全就労従業員 464 人のうち、新規で地元雇用された正社員数は 96 人、非正社員数は 128 人で、計 224 人となっており、このうち就業のため本市に転入した従業員は、10 社で 31 人となっています。

また、464 人の従業員の年齢別構成は、20 代が 25%、30 代が 34%、40 代が 23%、50 代が 14%、60 代以上が 4% となっていますが、本市に転入した従業員の年代は、現在のところ把握していません。

今後の企業誘致の見通しにつきましては、過去からの企業訪問などの取り組みや、京奈和自動車道の開通並びに現在の経済状況から着実に成果を上げることができると考えます。

次に、二点目の若年者雇用の必要性の認識についてお答えします。

活気あるまちづくりには、若者の定住できる雇用環境が必須との判断から、本市は企業誘致に積極的に取り組んでいます。議員ご提案の若年者の U ターン就職支援のため、誘致企業に対して新卒者あるいは若年者の中途採用を要請することは可能ですが、誘致企業の傾向としては、比較的即戦力となる人材を中途採用するケースが多いというのが実態です。

しかしながら、市内で育った若者が、大学卒業後に U ターンにより本市で就職し、定住いただくことは、活気あるまちづくりの観点からは大切であると考えますので、今後、誘致企業に対し働きかけていきたいと思っております。

次に、市のホームページに企業の社員募集就職情報サイトを掲載できないかのご提案ですが、まず企業の社員募集については、個別企業の求人情報を、公共性のある市ホームページに直接掲載することは困難と考えますが、誘致企業名一覧から各企業ホームページにリンクづけをすることはできますので、そこから U ターンを希望する若年者等が誘致企

業の採用情報を得ることは可能です。

また、就職情報サイトの掲載ですが、既に和歌山県がわかやま就職ガイドというウェブサイトを開設し、U・Iターンのための県内求人情報をタイムリーに掲載しており、またハローワークをはじめとした関係機関と連携し、若者の就職を応援する目的で、ワンストップセンタージョブカフェわかやまを設置しています。本市に特化した取り組みではありませんが、これらのサイトを利用するよう誘致企業に働きかけることで、企業の採用募集時には、本市にUターンを希望する若年者に情報提供をできると考えています。

本市が企業誘致を本格的に始動して以来、進出協定締結企業が27社、うち20社が操業を開始しておりますが、1社当たりの計画採用人員が平均15人で、特に若年層の正規採用はまだまだ少ないのが現状です。今後、本市で若年者のUターンによる就職がより多くなるよう、誘致企業に対し積極的に要請していきますので、ご支援のほどよろしく申し上げます。

次に、四点目の定住・移住促進のための本市のPR方法についてお答えします。

まず、何をどこにどのような方法で売り出していくのかについては、柿、巨峰ブドウ、ハタゴボウ、マッシュルームなどの農産物及びその加工品は、県とJAが共同で開催予定しているシンガポール、台湾、香港での店頭販売活動に、本市もかかわっていくとともに国内でも首都圏PRイベントや国内外のバイヤーが参加する見本市などにも参加していきたいと考えています。

また、パイル織物などの工業製品に関しても、海外バイヤーとの商談会や紀州繊維組合の単独東京展示会の開催などに、本市として支援したいと考えています。

このような産業支援を行うことで、企業の

雇用促進や収益向上を図れるとともに、本市自体のPRにもなり、本市への定住促進につながることを期待しています。

次に、本市の魅力を発信するためのPRツールについては、現在市ホームページ、フェイスブック、定住促進パンフレットがあります。運用につきましては、市ホームページやフェイスブックは市の行政情報や市内のイベント情報を即座にかつ広範囲に発信するための手段としては有効であり、ほぼ毎日更新し最新の情報を市内、市外を問わず発信しています。

定住促進パンフレットは、昨年度2種類作成し、新婚世帯住宅取得補助金や子育て施策などの行政情報、地域資源、特産品などの情報などをまとめ、本市を訪れた方が、少しでも本市に興味を持っていただくため、駅や市内の宿泊施設、観光案内所など数箇所に設置しています。

また、市外、特に南海電鉄沿線の在住の方に対して、本市の魅力を知っていただき、橋本市が、今後定住・移住の一つの選択肢となることができるよう、なんば駅や堺東駅にて主に20、30代の若者世代を対象に、当パンフレットを配布しました。

来年度については、紀の国わかやま国体が開催され、県外から多くの方が本市を訪れます。また、隣の高野町では、高野山開創1,200年記念大法会が開催され、こちらも多くの方が本市を訪れる契機となります。これらを好機と捉え、本市の定住促進のためのシティーセールス活動を行っていきたいと考えています。

また、中・長期的な定住促進に関するPR戦略については現在検討中であり、費用対効果も検討した上で取りまとめていきたいと考えています。

○議長（石橋英和君）教育長。

〔教育長（小林俊治君）登壇〕

○教育長（小林俊治君） 三点目のふるさと教育の推進についてお答えします。

まず、橋本市を離れ、都市圏で就職する若年者の具体的な人数など実態を把握できているかとおたただしですが、市としては正確には把握しておりません。

次に、生まれ育った地域のよさを伝え、ふるさとを愛する心を涵養するためのキャリア教育について、現在どのような取り組みがなされているかについてお答えします。

橋本市の教育目標に、橋本市に誇りを持ちこれからの社会を担う活気と責任、自覚ある人づくりを進めるとあります。地域社会における結びつきや連帯意識が希薄化する中、幼い頃からの人間形成の場であるふるさとを知ることが、郷土に対する自信と誇りを持つとともに、郷土を見つめ直す機会となります。

学校では、橋本市にある多くの教育資源を学習活動や体験活動に積極的に取り入れ、地域のすばらしさに気づき、郷土を愛し、守り育てる意欲や態度の育成をめざすふるさと教育を、総合的な学習の時間や道徳の時間また生活の時間を中心に推進しています。

また、単に職場体験だけではなく、橋本市で活躍している若い世代の魅力的な働き方を紹介するなど、実のあるキャリア教育を推進することは可能かとおたただしですが、中学校では、生徒が将来への夢や希望を持ち、前向きな生き方ができるよう、卒業生などの人材の活用など、生きた教材を使って進めていますので、ご理解願います。

少子化傾向の中において、今以上に自分の生まれ育ったふるさとを知っておくことは、地域への帰属意識、ふるさとへの愛着を高めることにつながり、必要なことだと考えています。そのために、現在ふるさと学習副読本の作成に向けて準備しているところですので

あわせてご理解のほどよろしく申し上げます。

○議長（石橋英和君） 10番 坂口君、再質問ありますか。

10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君） ご答弁をいただきまして、本当にありがとうございます。また、企業誘致におかれましては、本当に詳細なデータを収集いただきまして、本当に参考にさせていただいております。

冒頭申し上げました日本創生会議、20代、30代の特に若年女性の人口の流出、人口減少問題と、私、冒頭も申し上げたんですが、これは橋本市にとりましては、人口の流出問題になるんですよね。

きのう、実は企画部長が、橋本市はこれ以上はもう人口は増えないんだから、人口をどのようにして減らすのを抑えるのかというようにご答弁もございましたけれども、まさにそのとおりだと思います。

そのためには、まずしっかりとした情報を収集しながら、まず行政として動けるところは動くというスタンスをおとりいただきたいという思いで、質問をさせていただきました。

日本創生会議の発表でございますと、20代、30代の女性の流出なんですけど、確かにこの橋本市、まちを歩いていまして、お店に入っても、20代、30代の女性、少ないですよ。さっき教育長もご答弁をいただきましたけれども、若年女性、特にこのまちを巣立って、そして大学を出て、このふるさとに帰って、どっかで働けるところ、私の周りにとりまして、それはやはり市役所の職員だったりするのが多いんですよ。私は同窓会の幹事をやっていますけれども、ほとんどが7割、8割、県外の人ばかりです。お嫁に行きますから、特に女性なんかはそうです。ですが、やっぱり橋本市でも仕事ができるという選択肢をぜひつくっていきたいと考えております。

あまり細かいことは聞きたくはないんですが、先ほど企画部長からUターンの和歌山県でも就職ガイドをやっているじゃないかというお話もあったんですが、橋本市の企業は其中で何社ぐらい出ているのでしょうか。

○議長（石橋英和君） 企画部長。

○企画部長（北山茂樹君） 申しわけございませんけども、その資料は持ち合わせておりませんので、後ほどお答えさせていただきます。

○議長（石橋英和君） 10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君） 結構でございます。1社のみです。中途採用の採用枠、高野口にあります織物会社1社のみが掲載されております。新卒者の採用枠はありませんでした。

実は、和歌山県のUターン・Iターン就職企業合同説明会というのが、先日の日曜日、梅田の阪急グランドビル 26階の会議室でありまして、橋本市の企業が出ていましたら、私もいろいろと事情等をお伺いしたいと思って伺ったんですが、こちらでもやはり橋本市の企業はありませんでしたね。30社出展していたんですけれども、ありませんでした。

これは、和歌山県の労働政策課と和歌山労働局が主催しているものなんですけど、和歌山県のUターン・Iターンの就職企業合同説明会です。たくさん来ていましたよ。1時から開かれていたんですが、もう開場と同時に、リクルート姿の学生がたくさん来られていました。聞くところによると、大学の就職課から案内をされて来たということなんですけど、たまたま聞いた学生が橋本市の男子学生でございました。橋本駅から歩いて15分のところに家があるという男子大学生、まだ就職は決まっていないということで、Uターン、ふるさとに帰ってきたいという思い。できれば家から通勤できる場所で職を探したいという話をしていました。まだ就職が決まっていない男子大学生です。

やっとのことで、和歌山県のふるさとUターン・Iターン就職企業合同説明会に来て、橋本市が出展されている企業はなかった。本当にながかりをされていたようなんですけども、ぜひ、今企画部長がおっしゃるように、確かに出ていますよ。和歌山県の就職ガイドは確かにあります。私も見ていますけれどもなかなか他府県の、特に東京や、あるいは大阪の大学に就学をしながら、橋本市で就職をしたい。さっきお話を申し上げました橋本市で就職をしたいという学生にとりましては、情報の収益の収集が非常に困難なんです。ハローワークで求人情報をとるか、あるいはリクナビ、マイナビといった就職情報サイトを探しても、なかなか橋本市の情報はありませんよ。

そうすると、どうするか。もう実際に橋本市に帰ってきて、本当に企業を一件一件尋ねるか、あるいは誘致した企業のホームページを見ながら、新卒者の採用枠があるかどうか、そんなことを探すしかないじゃないですか。おっしゃるのはよくわかるんですけども、本当に本気になって、今申し上げたように、20代、30代の若年女性の人口は流出しているんですから、これはもう机上の空論では済まされないんです。ほっておいたら本当に橋本市もえらいことになります。そんな危機感を持って、今回質問をさせていただきました。

もう本当にそういう大学生、橋本市に帰ってきてもらいましょうよ。教育長がおっしゃるように、夢を追いかけて、東京、大阪の大手の企業に就職する。これもいいと思います。ですが、やっぱり家庭の事情で橋本市に帰ってこらざるを得ないような学生には、やっぱり情報が必要なんです。その情報の提供の仕方、私は先ほど若年者就職支援事業なんていうようなことを申し上げましたけれど

も、お金がかかることですから、これは何も企業に補助金を出して新卒者の採用枠を確保してもらいたいと、そんなことを申し上げているつもりはないんですが、せめて情報を大学生にしっかりと提供をしてあげる。せめてこういうことをやっているんですから、和歌山県がやっているんですから、労働局がやっているんですから、こういうところに出展する企業がなくても、行政の方が行って、橋本市に帰ってこられる手だてを示唆するようなことをあげましょうよ。だって、実際にいるんですから。通勤圏内で働きたいという学生がいるんですから、そういうことをぜひしていただきたいと思います。

ちょっと私の意見が長くなりましたが、もう一つ質問がございます。

私はこう見えますけれども結構心配性でございます、知っていますよ。補助金の期間は 10 年間でありますね。費用対効果もありますけれども、補助金の期間が 10 年間過ぎたら、企業の論理で撤退されるということはないのでしょうか。そのあたりはどうでしょうか。

○議長（石橋英和君）理事。

○理事（吉田長司君）私は企業誘致の担当もしますので、お答えさせていただきます。

10 年間ということで、非常に長い期間でございます。それで、ちょっと先でも、シャープなり、パナソニックなんかでも、10 年もたたずに撤退したということもございます。そういうリスクは、確かにございます。ただ市が求めていますのは製造業ということで、じっくり落ちついて製造できるような企業を製造業なり流通業、流通業はちょっとあるかわかりませんが、そういうところ、それから通信関係もございますけれども、製造業を中心に考えてございますので、じっくり橋本市に根差していただきたい企業ということで考えてございますので、その辺はご理解願

いたいと思います。

○議長（石橋英和君）10 番 坂口君。

○10 番（坂口親宏君）ご答弁をいただきまして、ありがとうございます。

私は誤解されないように申し上げておきますけれども、企業誘致を本当に応援しています。今、本当に橋本市の財政を支えていく若い人たちの人口の流出をとめていく手だては今考えたら企業誘致しかないと思っています切り札だと思っています。企業誘致を応援していますよ。

ですが、やっぱりその費用対効果が見えにくいんですね。元が取れているのかどうかというところの話です。先ほど具体的に法人税あるいは固定資産税の増減の報告をいただきましたけれども、それに加えて、橋本市は人工の造成であったり、インフラの整備をしているじゃないですか。それらも含めて、どうでしょう。元が取れているのかどうか。ちょっと言葉は間違っているのかもしれませんがあとどれくらいの年数があれば回収できるのでしょうか。このあたりはちょっと電卓を持っていないので、すぐには計算できないかもしれませんが、おおよその試算で結構でございます。

○議長（石橋英和君）理事。

○理事（吉田長司君）回収できるかという問題でございますけれども、企画部長から申しましたのが、現時点での税金の収入と奨励金の支出でございます。それが 10 年間続きますので、まだ全部埋まってございませんけれども、現在のエコヒルズが全部埋まったとして条件としまして、それから 10 年間奨励金を払って、税金も入ってくるということで考えますと、固定資産税と法人市民税で考えた場合 10 年間で税金関係が約 26 億円入ってきます。約でございますけれども、26 億 265 万円。それに対して奨励金が、これもざっとした数字で

ございますけれども、約 13億 9,627 万円あります。

そういうことで、都合 10年間で12億円の収入ということでなっています。そのほかにも個人市民税、それからほかのもろもろの収入も含めると、以前の議会でも申しましたように、奨励金を払った段階で年間2億円強、2億円から2億 5,000 万円の収入の増があるかと考えてございます。

それと、現在までの橋本市の企業関係の投資した額でございましてけれども、平成 17年から平成 25年までということで9年間、企業誘致室ができてからの話でございましてけれども、支出で35億 8,700 万円、それから収入で29億 5,100 万円ということで、現在6億 3,600 万円ほどの赤字になってございます。この中には、臨時・嘱託の給料は含んでございましてけれども、人件費は含んでございませぬ。それでその6億 3,600 万円の中でも、企業誘致と関係ない恋野用地の買収とか、それから妻地区の雨水排水ということで、それも企業誘致基金から捻出してございまして、そういうもろもろが、企業誘致以外が3億 2,800 万円ほどございまして、相殺しますと、約3億 800 万円の赤字になってございます。

それと、人件費でございましてけれども、県へ出向している者も含めまして、延べ 47人の職員をしています。それで、平均の職員の給与、年俸を掛けますと、3億 5,000 万円ほどかかっているということでございまして、全体として3億 800 万円と3億 5,000 万円と6億 5,000 万ほどの、現在赤字になっている。人件費も含めまして考えたら、そういうことになってございます。

以上です。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）ありがとうございました。

繰り返し申し上げておきますけれども、企業誘致、私は応援しています。元は取れなくてもやらないといけないことは、もう本当にわかっています。午前中、市長がこんなことをおっしゃっていましたね。マッチングがうまくとれないから仕方がない。それはおっしゃるとおりだと思えますね。あと4番議員がおっしゃっていましたね。和歌山県の最低賃金が701円、関西では一番低いですよ。こういったものを売り物にしてはどうかと。おっしゃるとおりだと思いました。

補助金であったりとか、最低賃金であったりとか、各自治体は過当競争で企業誘致をしていますよ。そんな中で、この橋本市が勝ち得たとしたとて、財政面でそれで堅固になるのかというようなことを考えますと、やはり疑問に思います。

やっぱり経済波及効果がなかなか見えてこないんですね。調査しましても、なかなか誘致した企業と地元にある中小企業がうまく連携してお金が動くような仕組みがなかなかできていませんね。だから、市民には企業誘致の実績というのが、なかなか伝わってこないんですね。

であれば、これはもうちょっと乱暴な提案になるかもしれませんが、もう本当に知っていますよ。前市長からトップセールスで、本当に汗水を流しながら一件一件企業を訪ね歩きながら獲得していった。本当に評価したい。本当に素晴らしいお仕事をされていると思います。ただ、やっぱりマッチングであったりとか見えてこないんですから、思い切って大型レジャー産業を誘致してくるか。今まで27社を企業誘致していますね、紀の川市では37社といった誘致した企業だけの数字を追い求めるのではなくて、いかに地元を活性化できるか。要は雇用数を獲得できるかというようなことを、もっと戦略的に頭を



ひねっていただきたい。大型レジャー産業を誘致したいというようなことは、ちょっと考え方は乱暴かもしれませんから、例えば本当に地元雇用をたくさん創出できるといった企業を、ぜひ誘致していただきたいと思います。

時間があまりありませんので、ちょっと教育長にもお伺いしたいと思うんですが、どうでしょう。この後の大きな質問で聞くんですが、前畑秀子氏、岡潔氏あるいは古川勝氏といった本市の名誉市民の話は、教育はされているんでしょうかどうでしょうか。

○議長（石橋英和君） 質問項目2に係る1での質問ですね。

○10番（坂口親宏君） 教育の話でお尋ねしています。今、お尋ねしているのは、あくまでも質問項目1、ふるさと教育の中で、本市の名誉市民である前畑さんであったり、岡さんであったりとか、そういった本市の偉人というのは、授業の中で、ふるさと教育の中では教えているものなんですか。

○議長（石橋英和君） 教育長。

○教育長（小林俊治君） ご質問にお答えします。

これは、先ほど話をさせていただきました伸びゆく橋本市という副読本です。小学校3年生から生活等の授業で使わせていただいています。昭和55年から改訂されておまして、これが9版目になります。次、もう今年10版目を出す予定ですが、ここに本当に少しです。岡潔、前畑秀子それから初代の市長の吉田六右衛門、そして古川勝、この4人の写真を載せて、子どもたちに学習しています。ただし、新版をつくる際には、この4人についてはもっと大きく扱って、子どもたちにしっかり知ってもらうように教育していきたいと考えています。

○議長（石橋英和君） 10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君） 教育長、ありがとうご

ざいました。

また質問1の途中で聞きまして、ちょっと混乱したかと思うんですが、実は、小学生、中学生に前畑秀子さんの話を聞きましても、知らない生徒児童が多いんですね。で、どうなのかなと聞いてみたんですが、やっぱり大学に行っても、橋本市はこんなにいいんだということ、自信を持って、胸を張って言えるような子どもたちをつくりたいですね。

そうしないと、やっぱりふるさと橋本市に誇りを持って帰ってこようという気持ちが湧いてこないですよ。ですから、今教育長がおっしゃったように、これからもどうぞ橋本市を愛する気持ち、愛する児童生徒が本当に増えるように、教員の現場でもお教えいただきたいと思います。

時間がありませんので、続いて2番にお願いいたします。

○議長（石橋英和君） 次に、質問項目2、前畑秀子生誕100年記念事業に関する質問に対する答弁を求めます。

教育次長。

〔教育次長（坂本安弘君）登壇〕

○教育次長（坂本安弘君） 前畑秀子生誕100周年記念事業のコンテンツについてお答えします。

当記念事業のコンテンツとして、まず、前畑秀子生誕100周年記念のぼりを製作し、5月20日の前畑秀子さんの誕生日に、市庁舎玄関前、JR、南海橋本駅前、南海林間田園都市駅前、市民プール等、市内の主要施設に設置し、市民に周知を図っています。

次に、前畑秀子生誕100周年記念クリアファイルを作成し、市内小・中学校に配布することで、子どもたちの認知度を高めていきたいと考えています。

さらに、前畑秀子さんの偉業を市内外に広めるべく、写真を含めたパンフレットを作成

します。また、7月31日に毎年開催される市内小・中学生を対象とした前畑秀子・古川勝記念水泳大会に、前畑秀子先生生誕100周年記念の冠をつけ開催し、ゲストとして前畑さんのご長男兵藤ご夫妻をお招きし、セレモニーを行うとともに、前畑さんの出身校である椋山女学園の水泳部、さらにはオリンピックをゲストスイマーとして招く予定をしています。

最後に、記念水泳大会日から、県立橋本体育館において1カ月間、前畑秀子さん生誕100周年記念展を開催します。

なお、ご長男の兵藤正臣様から譲り受けましたベルリンオリンピック優勝当時の実況についても、当日放送することで、記念水泳大会を盛り上げたいと考えています。

1936年、昭和11年、ベルリンオリンピックにおいて日本人女性初の金メダル獲得、厳しい練習や周囲からの期待のプレッシャーに耐えた後に勝ち取った栄冠は、郷土の誇りとして、長く後世に伝えていかなくてはなりません。現在、ホームページを利用した広報活動を展開することで、市民の皆さんへの周知を図っているところでありますが、今後とも議員各位のご協力をお願いします。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君、再質問ありますか。

10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）ありがとうございます。

いらっしゃる皆さんに、ちょっとお尋ねいたします。8月11日は何の日でしょうか。いらっしゃる皆さん、おわかりになる方はどうぞ挙手で示していただけたらと思います。一番最後に挙手をされた方に、できればお答えいただければと思います。どうぞ。おわかりになりませんか。おわかりになる方、全てお手をお挙げくださいとお願いをしているんで

すが、おわかりにならない方がこれだけいらっしゃると思いますか。

○教育次長（坂本安弘君）ガンバレの日ということになっています。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）そうですね。8月11日はガンバレの日ですね。この質問をしますと今私の周りでは山の日だという答えが返ってきて、文脈を整理するのに大分時間がかかるんですが、8月11日はガンバレの日です。

去年の9月議会で、9月10日、中本浩精前議員の橋本市民プールにサブプールを建設するという答弁に、当時の経済部長がこんなことをおっしゃっています。日本人の多くが知っている前畑頑張れのフレーズをブランド化して、経済団体や民間事業者の協力を得て、地場産品の商品化につなげていけるように検討していきたいと考えています。また、前畑氏とともに古川勝氏の2人のオリンピック金メダリストを輩出したことは、郷土の誇りであり、その偉業や足跡をメディア等を利用して広く紹介することや、水泳のまちとして橋本市をPRすることが、やがては企業誘致や商工観光の振興、定住促進など幅広い分野で経済波及効果につながるものと期待していますと、すばらしいご答弁をされています。

このご答弁、9カ月たちました。今回の事業にはどのように生かされているのかお答えください。

○議長（石橋英和君）経済部長。

○経済部長（笠原英治君）ただ今の答弁に關しましては、まさに私が商工観光課の課長をしておるときに、答弁として部長からさせていただいた内容でございます。

前畑さんの実家というのはお豆腐屋でして前畑豆腐印のそういったブランド豆腐をつくってはどうかというお話もいただいて、市内にいろいろな豆腐屋をあたって、そういう製

作をしていただけたところがないかとか、いろんな検討はしております。

今、議員おっしゃられたように、地場産業の振興に生かして定住促進につながっていくような行政としてふさわしい取り組みを、今後新しい市長ともしていただけると私は考えております。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君） そうですか。では、これからの取り組みに期待してよろしゅうございますね。まだ具現化されていないという感じもいたすんですが、それから、5月 27日、朝日新聞の朝刊の県版に、このような記事が記載されています。

これは、橋本市の記事が二つ並んでいるんですよ。珍しいので、私はコピーしました。上が前畑氏生誕 100年の橋本市にのぼりができたという記事、それから映画じんじん、橋本市で上映会、二つ並んだ記事というのは本当に珍しいのでコピーしたんですが、この中で、こんなことを書いていますよ。

前畑さんがベルリン五輪女子平泳ぎ 200 mで金メダルに輝いた8月 11日を祝うという記事で結ばれているんですが、8月 11日はどのようにして祝うんでしょうか。

○議長（石橋英和君）教育次長。

○教育次長（坂本安弘君） 前畑秀子生誕 100周年記念事業ということで、いろいろと検討をさせていただいてまいりました。先ほど答弁の中でもありましたように、前畑秀子・古川勝記念水泳大会、これは橋本市水泳連盟のほうの主催で行いますが、その水泳大会に、生誕 100年という冠をつけて偉業をたたえ、前畑秀子さんを知っていただくということで前畑秀子生誕 100周年をそれに特化して行うということで決定をしてまいりました。

ですので、8月 11日について、特に何か特別な催しというのは、現在考えてございませ

ん。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君） ありがとうございます。

8月 11日というのはガンバレの日、前畑さんの生誕 100年、橋本市にとりましては、まさに千載一遇のチャンスだと思いますよ。生誕 100年ですから、千載ではなくて 100年に一度のチャンスだと思いますよ。

橋本市は、この前畑頑張れというフレーズをブランド化して発信していく義務があると思います。全国の自治体の中では、橋本市だけです。加えて言うなら、椛山女学園にぜひご協力をいただいて、椛山女学園にもご協力をいただかないといけません。前畑秀子氏を水泳選手として育て上げた。これは、本当に椛山女学園のおかげです。

私は、8月 11日をエポックメイキングとして、NHKの連続テレビ小説朝ドラのドラマとして、このロケ地を誘致してはどうかという提案をさせていただきます。8月 11日ガンバレの日、前畑秀子頑張れ、これはNHKの河西三省アナウンサーが、1936年、昭和 11年にベルリンオリンピックで水泳の実況をした前畑頑張れを、NHKとしては本当にほおっておかないと思います。私が考えているのは2020年4月スタートの朝ドラです。NHKにとりましては、本当においしいソフトだと思います。

実は、また過去にほかの自治体でも朝ドラを誘致しているところがあります。2011年10月13日の記事なんですが、これは香川県の知事が東京都のNHK放送センターに行きまして、当時のNHKの松本会長に会いまして、陳情している風景が写っていますね。ここはどういう陳情をしたかということ、どうぞ香川県でロケをしてください。後づけとして、金毘羅歌舞伎の裏方というソフトもありますよ

というようなセールスをしているんですが、橋本市は違いますね。橋本市は、前畑頑張れで、先ほど申し上げましたように、売っていきましょと申し上げましたね。

ぜひ前畑秀子氏生誕 100年の記念事業を契機として、NHKの連続テレビ小説、通称朝ドラのロケ地として、NHKに陳情するなりあるいは誘致委員会のようなものを立ち上げてやっていきたいと思うんですが、近いところでは九度山町がNHKの大河ドラマを誘致していますね。もう決まっていますね。聞くところによると、4年間で7回、岡本町長は陳情に行ったそうなんですが、ほかの自治体も朝ドラの誘致をしているところも幾つかあるんですけども、どうでしょう。橋本市ではこういうことを考えているんですが、いかがでしょうか。

○議長（石橋英和君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君） 坂口議員の質問にお答えします。

確かに非常にいい取り組みだと思っています。その中で、橋本市としても、まずロケ地として本当に今現在撮影できるところがあるのかという問題もあろうかなと思いますし、条件的に、私も朝ドラはやればいいと思っています。これには、もう一つ大事なことは、市民の皆さんがいかに盛り上がっていただけるか。若い世代の人が、前畑秀子さんをどこまで知っていただけるかという市民の皆さんとの合意形成も必要かなと思います。そういう中で、これから準備会を立ち上げるということも考えてもいいと思います。その中で、いかに周知な準備をして、2020年に放映できるような橋本市、そして橋本市民も一緒に動いていただく。そして、和歌山県にも協力をいただくという取り組みとしていければと思っています。いい提案をいただきましたので、

前向きに進めていくように努力いたします。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君） 平木市長、本当にありがとうございました。

思わぬ本当に前向きなご答弁をいただけるとは思っていなかったものですから、今、ちょっとどのようにつなげようか考えながらしゃべっています。

先ほど教育長もおっしゃったんですが、市長もおっしゃったんですから、市民全体で盛り上げていけないといけないと思うんですねぜひ子どもたちにそういった教育もお願いしたいと思います。

それから、これは最後ネタです。実は私もちゅらさんのときから、朝ドラをよく見えます。国仲涼子のファンでしたから。そんなことはどうでもいいんですが、あまちゃん経済効果、去年もあまちゃんをよく見ていましたよ。大変ヒットしたNHKの連ドラですねちょっと市長の耳に入れておこうと思ひして持ってきました。

久慈市をメインロケ地としているNHKの連続テレビ小説あまちゃん、経済波及効果が32億8,000万円です。岩手県内だけで32億8,000万円、33億円ぐらいの経済波及効果があったということです。大型連休中にモデルとなった岩手県久慈市を訪れた観光客の数字から類推して、2011年度1年間では68万8,000人が久慈市を訪れたと。経済波及効果はやっぱり間違いなくあるんですよ。

先ほど申し上げましたように、今本当に橋本市は人口減少問題で、市民の皆さんが小さくなっていますよ。市長、ここで朝の連続テレビ小説という宝くじを1枚買いましょよこれは当たるかどうかわからないですけども、買わないと宝くじというのは当たらないものですら、私もまだ宝くじというのは1回も当たったことがないので、こんな余計なこ

とを言うつもりはないんですが、まず手を挙げて、朝の連続テレビ小説ロケ地誘致という宝くじを買いたいと思うんですが、具体的に誘致委員会というものは、市長、どうでしょう。やっぱり宝くじというのは多少お金がかかりますから、ジャンボ宝くじでも 300 円がかかりますから、多少の出費はかかると思うんですが、そのあたりは、市長、どうでしょうか。

○議長（石橋英和君）市長。

〔市長（平木哲朗君）登壇〕

○市長（平木哲朗君）ただ今の質問にお答えします。

私の政策の中でも、費用対効果を見てそれに取り組んでいくという公約にもあります。その中で、確かに大きな事業効果はあると思います。別に協議会をつくる予算がないというわけでもありませんので、これからメンバーの人選であるとか、どういうふうな形で進めていくのかという問題もあります。実際に今観光協議会を設立準備会をして、7月2日に第1回の会議をします。逆にそういう中で民間の人がメインですので、そういう人と議論をしていくという方法もありますし、新たに実行委員会形式で立ち上げていくという方法もありますので、少し部内でも協議をさせていただいて、近々にご報告できるような結果を出していきたいと思っておりますので、よろしくをお願いします。

○議長（石橋英和君）10番 坂口君。

○10番（坂口親宏君）ありがとうございました。

本当に前向きなご答弁をいただきました。楽しみにしております。

市長、先ほどからの市民全体で盛り上がっていかないといけないというお話もされておりましたけれども、私は具体的にパイロット版を、橋本市役所庁内で製作費用ゼロ万円で

つくったらいいと思うんです。今、家庭用ビデオがいいのができています。それから、編集ソフトなんかもうパソコン上でできるんですから、同僚議員でもプロのビデオカメラマンがいますけれども、私もナレーターぐらいはまだできますから、費用ゼロ万円、市長、つくろうじゃありませんか。前畑秀子物語です。もう私もタイトルも考えていますよ。金メダルへのターンです。紀の川のトビウオ前畑秀子物語です。これは5分ぐらいでいいですよ。ユーストリームとユーチューブ、今そんな手段がありますから、製作費ゼロ万円で作ってしましましょうよ。そうすると、やっぱりマスコミが飛びついてきます。

それと、もう一つ。8月11日、無理かもしれませんが、1936年のベルリンオリンピックの決勝の再現レースを、橋本市民プールでできたらなと思っています。さっき過去の音源を流したらどうかというようなこともあったんですけども、市長、ここは体を張っていただいて、100のターンから50の折り返し、当時のNHKの河西三省アナウンサーが24回前畑頑張れというのを絶叫したそうですから、ここは市長、プールサイドでマイクを握っていただいて、前畑頑張れ、前畑嬢、わずかにリード、この二言のフレーズだけでいいですよ。こういうことをしますと、マスコミは必ず飛びついてきます。そうすると、橋本市全体に前畑が、前畑という意識が根づいて、朝ドラ誘致への本当に大きなエポックメイキングになろうかと思っております。これも費用ゼロ万円です。

これは、ぜひHMP 48の皆さんが協力をしていただいて、先ほど申し上げた前畑秀子物語であったり、あるいは無理であれば、市長せめて大声コンテストをやしましょう。私が司会をやっても構わないですよ。前畑頑張れ何とか頑張れということ、橋本市民プール

で子どもたちに絶叫してもらいます。そうしたら、やっぱりテレビカメラが二、三台ついていきますよ。こういうことをやると、やっぱり橋本市は元気だ、橋本市は前畑で売っているんだということを、対外的にアピールできますから。元気にやってみましょうよ。

ちょっと聞いた情報によりますと、大河ドラマは2年前に作品が決定します。ですから朝の連続テレビ小説、2020年4月スタートという照準を絞れば、2018年ぐらいには恐らく作品が決定されると思います。残り招致時間は、あと3年半くらいです。2018年の早春に、

この橋本市に朝ドラ撮影地決定という朗報をぜひ皆さんと一緒に喜び合いたいと思います。

ご清聴いただきましてありがとうございます。私の質問は以上でございます。ありがとうございました。

○議長（石橋英和君） 10番 坂口君の一般質問は終わりました。

この際、2時10分まで休憩いたします。

（午後1時57分 休憩）